



とまり木  
どこに  
でも

療の吸引など吸引、医師や看護  
師にしか認められていない医療的  
ケア（医療）が必要な子どもの  
地域支援について考えるシンポジ  
ウムがこのほど、久留米市であっ  
た。在学のある障害者が地域で  
安心して暮らすためには、ライフ  
ステージにかかわらず一貫して相  
互は次の通り。 (川口安子)

## 子どもの医療的ケアを考えるシンポジウム



シンポジウムでは、保護者や学校関係者が約150人が互を語り合

# 地域で暮らす仕組み どう作る

### 就学前



上野ひろみさん

### 退院後の不安を知って

5歳の息子は先天性の病に  
より、1歳で人工呼吸器が必  
要になった。私は看護師の経  
験があるが急激な変化に心  
ついていけず、不安でいつは  
いだった。

自宅と病院のギャップは大  
きく退院後の支援は重要だ。  
私の場合は主治医がサービ  
スの受け方を丁寧に説明して  
くれたから助かったが、周囲に  
患者を抱えた家族がサービ  
スを申請、準備するのは容易  
ではない。認められる内容も  
地域差が大きく、主治医の意  
見書一つで変わることもあ  
る。入院中から一貫して支援  
してくれる仕組みがあればど  
う思う。

### 学齢期



林奈美さん

### 送迎でのケア、対応を

県立の特別支援学校に通う  
中学2年の息子には、療の  
吸引も青ろうからの経管栄養  
などの医療ケアを、学校で（香  
護師に）実施してもらってい  
る。

息子は先生をとても信頼し  
ており、学校は能力を最大限  
に引き出してほしい。送迎に  
看護師を加えて、いつもそば  
にいる先生方にも医療ケアに  
必要となる通学パスに業せ  
てほしい。

### 卒業後



水野英尚さん

### 夢ある将来の選択肢を

20歳の娘は最近になって入  
工呼吸器が必要になり、医ケ  
アの有無で生活が大きく変  
わることに驚いた。3年前、  
重い障害のある人の一時預  
かりなどを行う事業所を立

ち上げたのは、当時、娘のよ  
うに人工呼吸器が必要な子ど  
もの受け入れ先がなかったが  
からだ。

医療ニーズが高いほど、学  
校を卒業した後に出ている  
く場所は少ない。施設が在  
宅かという二者択一でなく、  
夢のある将来を描ける選択肢  
を広げたい。

そのためには、医ケアを  
くわたい。

「生活支援行為」として、地  
域で重層的に支える仕組みが  
必要だ。医師や教師、福祉職、  
企業など多様な職種がかかわ  
ることが必要で、特に在宅  
「ディネーター」が重要にな  
る。

重い障害のある人を受け入  
れることで、地域のケア力も  
高まる。当事者施設だけの  
関係でなく、地域全体がとも  
に成長していける仕組みをつ  
くわたい。